

目次

口 絵

序

凡 例

細 目 次

第一編 近代後期の県民生活と地域社会

第一章 県民生活の動向……………一

第一節 生活にあらわれたゆとりと個性……………一

第二節 生活調査からみた県民……………一六

第三節 結婚と家族の実情……………二八

第四節 非常時型生活の浸透……………三七

第二章	女性の希望と現実	四七
第一節	女性への規制と反論	四七
第二節	女子労働の現場	六四
第三節	関係深まる行政と女性	七四
第四節	遊廓の内外	八四
第三章	地域社会・農村	九三
第一節	村の様相	九三
第二節	村の苦しみ	一〇七
第三節	農村の再生にむけて	一一七
第四節	移民に託す	一二四
第四章	都市化の進展と都市の生態	一三五
第一節	都市形成の思想と運動	一三五
第二節	都市の膨張と都市的心性の発露	一四六

第三節	都市交通の変貌……………	一五五
第四節	都市の地域住民組織……………	一六四
第五章	マイノリティの社会と生活……………	一八一
第一節	被差別部落の生活……………	一八一
第二節	障がい者へのまなざし……………	一九四
第三節	在留朝鮮人の増加とその生活……………	二〇二
第四節	中国人およびその他の外国人……………	二一八
第六章	社会事業の展開……………	二二七
第一節	貧困問題の諸相……………	二二七
第二節	社会事業の拡大と限界性……………	二三六
第三節	方面委員の活動……………	二四六
第四節	民間事業に貢献した人々……………	二五六
第七章	戦争・軍隊と県民……………	二六七

第一節	軍隊の地域への影響	二六七
第二節	新聞報道と県民意識	二七八
第三節	出征兵士の戦場体験	二八九
第四節	兵士と家族への援護と規制	三〇一
第八章	宗教と祭礼	三二三
第一節	宗教への意識	三二三
第二節	諸宗教の動向	三三四
一	神道と神社	三三四
二	仏教	三三八
三	キリスト教	三三三
四	新宗教	三三八
第三節	宗教者による社会事業	三四三
第四節	国家による慰霊と祭典	三五五

第二編 近代後期の社会運動

第一章 労働者の状態と労働運動……………三六五

第一節 労働者の状態……………三六五

第二節 労働組合の組織と運動……………三七六

一 労働組合の組織……………三七六

二 労働組合の運動……………三八三

第三節 労働争議……………三九〇

一 第一次大戦後の労働争議……………三九〇

二 昭和恐慌以降の労働争議……………四〇三

第二章 農民問題と農民運動……………四二一

第一節 農民組合……………四二一

第二節 地主組合……………四三三

第三節 小作争議……………四四四

第四節 多様化する争論……………四六〇

第三章	左翼無産運動と右翼運動	四六九
第一節	無産政党運動	四六九
第二節	左翼運動	四八三
第三節	プロレタリア文化運動	五〇〇
第四節	右翼運動	五〇九
第四章	反戦・反軍運動と平和論	五一五
第一節	兵役への異議	五一五
一	第一次大戦後の軍紀弛緩と兵役忌避	五一五
二	満州事变以後の兵役忌避	五一一
第二節	反軍・反戦行動と抵抗	五二五
一	山東出兵期	五二五
二	満州事变期	五三三
三	日中戦争期	五三六
第三節	国際交流と軍国主義批判	五四三

第五章 市民・住民の運動……………五五七

第一節 普通選挙運動……………五五七

第二節 電気料金値下げ運動……………五六六

一 戦後不況期の電価値下げ運動……………五六六

二 昭和恐慌期の電価値下げ運動……………五六九

第三節 公害反対・環境保護運動……………五七八

一 化学工業の進出と反対運動……………五七八

二 豊橋人毛争議……………五八三

第四節 地域民衆の諸運動……………五九一

一 地域行政の民主化運動……………五九一

二 公課撤廃運動……………五九三

三 借家人運動……………五九七

四 消費者運動……………六〇二

第六章 女性運動の諸相……………六〇七

第一節	社会問題・組織活動への模索	六〇七
第二節	遊廓への異議申し立て	六二五
第三節	無産女性の困難と運動	六三三
第四節	婦人参政権要求の周辺	六四四
第七章	マイノリティの社会運動	六五三
第一節	被差別部落の社会運動	六五三
一	融和・改善事業の展開	六五三
二	水平社の創立と展開	六五九
三	軍隊内における反差別のたたかい	六六七
第二節	在留朝鮮人の社会運動	六七一
一	融和団体の成立と展開	六七一
二	在留朝鮮人の運動の展開	六七八
三	在留朝鮮人の教育運動	六八六
第三節	在留中国人の諸組織と民族運動	六九三

第三編 総力戦下の県民生活と地域社会

第一章 総力戦下の県民生活……………六九九

第一節 戦時生活の現実……………六九九

第二節 女性と子どもの戦争総動員……………七二二

第三節 戦争を支える家族……………七二六

第四節 過重化する町内会の業務と深まる混迷……………七三五

第五節 総力戦下の農村……………七四七

第二章 戦時動員の強化……………七五九

第一節 県民の戦意と戦争協力……………七五九

第二節 軍隊への動員と援護活動……………七七一

第三節 産業報国会の活動……………七八三

第四節 徴用の強化と女子勤労挺身隊……………七九四

一 徴用の強化と実態……………七九四

二	女子勤労挺身隊	八〇〇
第五節	植民地民衆と戦時動員	八〇六
第三章	本土空襲と戦時災害	八一七
第一節	初空襲と緊張する住民	八一七
一	四・一八初空襲の混乱	八一七
二	近づく空襲に不安と対策	八二〇
第二節	空襲体験と住民の被害	八二六
一	名古屋空襲と市民の被害	八二六
二	焦土にされた豊橋・岡崎・一宮	八三九
三	工場爆撃の拡大による被害	八四六
四	さまざまなる空襲被害	八五六
第三節	戦災としての地震	八五九
一	東南海地震と動員学徒などの被害	八五九
二	三河地震と疎開学童などの被害	八六三

第四章	総力戦体制への抵抗と弾圧	八六七
第一節	開戦直後の左翼グループ弾圧	八六七
第二節	文化人・知識人の抵抗	八七四
第三節	労働者・戦時動員者の抵抗	八八四
第四節	庶民などの抵抗	八九六
第五節	朝鮮人民族運動などの弾圧	九〇七
解説		九一七
付表		
あとがき		
資料提供者及び協力者		
愛知県史編さん関係者名簿		
主な出典一覧		

細目次

第一編 近代後期の県民生活と地域社会

第一章 県民生活の動向

第一節 生活にあらわれたゆとりと個性

1	日常生活必需品の名古屋市内商店現況 一九一九年(大正八)六月	1
2	第三師團入営兵の体格 一九二〇年(大正九)八月一日	3
3	贅沢化した食習慣 一九三三年(大正十二)三月十七日	4
4	娯楽は活動写真・野球・音楽 一九三三年(大正十二)六月	5
5	図書館における読書傾向 一九三〇年(昭和五)九月三日	6
6	葉栗村の娯楽傾向 一九三四年(昭和九)一月	7
7	昭和十年千郷村年中行事 一九三五年(昭和十)二月五日	8
8	碧海郡の新聞・雑誌・ラジオ等の普及状況調査 一九三六年(昭和十一)三月三十一日	11
9	子どもと流行歌 一九三七年(昭和十二)六月二十四日	12
10	合理的家庭生活の設計 一九三八年(昭和十三)九月	13

第二節 生活調査からみた県民

11	小学教師の生活調査 一九一九年(大正八)十月十日	16
12	女学生による副業調査 一九二〇年(大正九)六月二十五日	17
13	火災に関する調査 一九二五年(大正十四)六月十五日	22
14	解雇労働者の行方 一九三一年(昭和六)一月十八日	22
15	失業苦の様相 一九三三年(昭和八)七月十三日	23
16	郵便貯金から見た世相 一九三五年(昭和十)五月二十三日	24
17	失業応急事業労働者家族調査 一九三六年(昭和十一)八月二十三日	25
18	中流階級の家計調査 一九三八年(昭和十三)八月三十日	26
第三節 結婚と家族の実情		
19	知多の女性がみた婚姻の矛盾 一九二〇年(大正九)一月	28
20	平等愛の夫婦 一九二六年(大正十五)六月一日	31
21	高齢者の結婚・嗜好品・子ども数調査 一九二六年(大正十五)八月十一日	32
22	父の出征 一九二八年(昭和三)七月二十五日	33
23	家出人の実情 一九三一年(昭和六)六月九日	34

24 結婚相談所の開設
一九三六年(昭和十一)十二月十八日……………35

25 県下の母子保護法該当者
一九三七年(昭和十二)六月十一日……………35

26 八人兄弟揃って兵役へ
一九三八年(昭和十三)一月一日……………36

27 軍人内妻の婚姻届
一九三八年(昭和十三)一月十三日……………37

第四節 非常時型生活の浸透

28 女子青年団の思想善導
一九二八年(昭和三)五月十日……………37

29 惟信中学生の血書の「日の丸」
一九三二年(昭和七)二月二十七日……………39

30 血染めの「日の丸」と黒髪を皇軍へ
一九三二年(昭和七)二月二十八日……………40

31 豊橋高女生の教導学校見学
一九三三年(昭和八)二月二日……………41

32 諸会合の定時励行状況
一九三七年(昭和十二)五月二十四日……………42

33 太陽館のニュース専門劇場
一九三七年(昭和十二)十月一日……………43

34 出征先輩諸氏に送る
一九三八年(昭和十三)三月四日……………44

35 名古屋商工会議所の国策代用品展
一九三八年(昭和十三)九月一日……………45

36 ガソリン難で小型自動車から大八車へ
一九三九年(昭和十四)五月九日……………45

37 連合婦人会の家計簿
一九三九年(昭和十四)十二月二十三日……………46

第二章 女性の希望と現実

第一節 女性への規制と反論

38 既婚婦人の職業について
一九一九年(大正八)一月……………47

39 男は女よりおくれているの説
一九二〇年(大正九)六月五日……………51

40 家庭教育いろはかるた
一九二一年(大正十)三月十八日……………52

41 女学校卒業生で満員の活動常設館
一九二一年(大正十)四月二日……………53

42 県立第一高等女学校卒業生の結婚実態調査
一九二二年(大正十一)十二月二十四日……………54

43 農村女性の結婚に関する調査
一九二四年(大正十三)八月三十一日……………58

44 女学校を巣立つ若者の要望
一九二八年(昭和三)一月二十七日……………59

45 女学生へ性教育の冊子配布
一九二九年(昭和四)四月六日……………60

46 婦人心得
一九三三年(昭和八)五月頃……………61

第二節 女子労働の現場

47 平塚らいてうの工女観察
一九一九年(大正八)八月二十日……………64

48 職業婦人の実情
一九二〇年(大正九)二月……………65

49 女教員の俸給・配偶関係
一九二七年(昭和二)八月三十日……………67

50	働く女性の給料	一九三一年(昭和六)二月三日	67
51	働く女性の生活記	一九三三年(昭和八)三月二十八日	69
52	女子労働者の現実と感想	一九三五年(昭和十)六月一日	70

第三節 関係深まる行政と女性

53	愛知県内処女会調査結果	一九二四年(大正十)十二月一日	74
54	県最初の女性方面委員	一九三〇年(昭和五)八月十四日	75
55	県連合婦人会の発会式	一九三三年(昭和八)十月二十九日	76
56	愛国婦人会愛知県支部軍事関係事業	一九三五年(昭和十)十月一日	77
57	国防婦人会名古屋地方本部の活動	一九三八年(昭和十)七月一日	78
58	経済戦へ母性動員	一九三八年(昭和十)七月二十三日	81
59	婦人指導員の仕事始め	一九三九年(昭和十四)五月十日	82
60	人事調停委員に十一人の女性	一九三九年(昭和十四)七月九日	83

第四節 遊廓の内外

61	遊廓移転の裏面	一九一九年(大正八)四月二十日	84
62	県内娼妓にかかわる税金と診療所経費	一九二一年(大正十)一月十日	86

63	県下公私娼の实情	一九二二年(大正十一)二月十日	87
64	名古屋娼妓の状況	一九三三年(大正十二)十一月十日	91
65	芸娼妓の月収	一九三二年(昭和七)十一月二十九日	92

第三章 地域社会・農村

第一節 村の様相

66	下山村郷栄会協定事項	一九二〇年(大正九)二月八日	93
67	鳳来寺の移動する炭焼き家族	一九二〇年(大正九)十一月二十五日	95
68	田口町警見記	一九二〇年(大正九)十二月一日	96
69	三河西瓜栽培業者大会	一九二五年(大正十四)七月七日	97
70	農村のトマト栽培	一九二五年(大正十四)八月二十五日	98
71	城東村青年団会談抄	一九二六年(大正十五)四月	100
72	千両町内会決議録抜粋	一九一九年(大正八)	103
		一九四〇年(昭和十五)	

第二節 村の苦しみ

73	死地に陥る蚕業家 一九二〇年大正九(五)月二十九日	107
74	農村から都市への移住防止 一九二一年大正十(一)月九日	108
75	モラトリアムの打撃 一九二七年昭和二(四)月二十六日	109
76	山村の窮状を救え 一九三〇年昭和五(十)月八日	110
77	働くほど赤字 一九三二年昭和七(六)月十二日	111
78	農家でありながら毎日飯の心配 一九三二年昭和七(六)月十九日	113
79	農村の借金 一九三六年昭和十一(八)月二十七日	115
80	肥料割当に関する陳情 一九三九年昭和十四(六)月二十六日	116

第三節 農村の再生にむけて

81	農事組合の概況 一九二六年大正十五(一)月一日	117
82	農村更生の旗印 一九三〇年昭和五(十)月三十一日	118
83	農村の工業化へ 一九三一年昭和六(四)月十七日	120
84	農村窮乏に関する陳情書 一九三五年昭和十(一)月二十九日	122
85	碧海の農民 一九三九年昭和十四(五)月二十五日	122

第四節 移民に託す

86	北米愛知県人誌抄 一九二〇年大正九(九)月二十五日	124
87	海外移民は北米から南米へ 一九二〇年大正九(一)月十一日	126
88	海外移住者を多数出した町村調べ 一九三三年昭和八(三)月	127
89	ブラジル移住者便り 一九三四年昭和九(四)月十五日	129
90	北満州に築く愛知村 一九三六年昭和十一(一)月二十九日	131
91	満州移民の花嫁 一九三七年昭和十二(二)月二十六日	131
92	満蒙開拓青少年義勇軍出願者へ 一九四一年昭和十六(三)月十五日	132

第四章 都市化の進展と都市の生態

第一節 都市形成の思想と運動

93	『都市創作』創刊号 一九二五年大正十四(九)月二十五日	135
94	全国連合会の機関誌になる『区画整理』 一九三六年昭和十一(六)月一日	138
95	全国区画整理連合会に望む 一九四〇年昭和十五(五)月一日	139
96	『区画整理』誌終刊のことば 一九四四年昭和十九(六)月二十五日	142

第二節 都市の膨張と都市的心性の発露

97	名古屋市の郊外への展開 一九二六年(大正十五)三月……………	146
98	市街美化に高まる関心 一九二一年(大正十)二月 一九二二年(大正十一)八月……………	149
99	自然美を求める行楽の波 一九二八年(昭和三)四月十七日……………	152
100	豊橋市内風致地区の選定 一九三六年(昭和十一)四月二十一日……………	153
101	人気の高いハイキングコース 一九四〇年(昭和十五)四月五日……………	154

第三節 都市交通の変貌

102	自動車交通への胎動 一九二九年(昭和四)四月十五日……………	155
103	名古屋市内交通量調査 一九三七年(昭和十二)三月 一九四一年(昭和十六)六月……………	159
104	半田市内交通量調査 一九三一年(昭和六)四月 一九三九年(昭和十四)五月……………	162
105	名古屋市総代制確立の動き 一九二五年(大正十四)十一月十五日……………	164
106	名古屋市中区方面懇談会 一九三三年(昭和八)十二月十六日……………	166

第四節 都市の地域住民組織

107	名古屋市中区連合町総代会細則 一九三六年(昭和十一)十二月十四日……………	172
108	豊橋市町総代制をめぐって 一九三〇年(昭和五)十一月 一九三一年(昭和六)十月……………	174
109	豊橋市末端行政区画の再編 一九三六年(昭和十一)十一月 一九三八年(昭和十三)七月……………	178
110	半田市町総代の設置 一九三八年(昭和十三)四月十七日……………	180

第五章 マイノリティの社会と生活

111	被差別部落児童の将来 一九二二年(大正十一)三月二十日……………	181
112	被差別部落の産業と労働者の窮迫 一九二五年(大正十四)四月十五日……………	182
113	愛知県の被差別部落概要 一九二五年(大正十四)八月……………	184
114	下奥田町不良住宅移転問題 一九二六年(大正十五)四月 一九二七年(昭和二)一月……………	186
115	中央融和事業協会の被差別部落調査 一九三〇年(昭和五)六月……………	188
116	同朋舎の廃品回収業の行き詰まり 一九三〇年(昭和五)六月二十五日……………	190
117	徴兵検査場での差別的取扱 一九三一年(昭和六)五月三十日……………	191

第一節 被差別部落の生活

118 日中戦争と軍用兔皮加工業
一九三九年(昭和十四)三月一日……………192

第二節 障がい者へのまなざし

119 名古屋傷痍軍人自彊会組織
一九二〇年(大正九)十二月二十五日……………194

120 名古屋盲人会の決議案協議
一九二二年(大正十一)二月九日……………195

121 全国盲人大会の名古屋開催
一九二四年(大正十三)二月三十日……………196

122 知多郡における障害者数調査
一九二六年(大正十五)二月十六日……………198

123 名古屋市立盲啞学校と県立移管運動
一九二九年(昭和四)六月……………198

124 盲人愛国会発会式
一九三一年(昭和六)十一月九日……………200

第三節 在留朝鮮人の増加とその生活

125 朝鮮人労働者受入れに関する県知事談話
一九二二年(大正十一)五月三日……………202

126 土木工事に従事する朝鮮人労働者
一九二三年(大正十二)八月十日……………203

127 関東大震災と朝鮮人への警戒
一九二三年(大正十二)九月二十二日……………203

128 不景気と朝鮮人労働者の就業難
一九二四年(大正十三)九月十九日……………204

129 豊橋の製糸工場における朝鮮人女子労働者
一九二六年(大正十五)六月二十五日……………205

130 朝鮮文字による投票問題
一九三〇年(昭和五)二月九日……………206

131 岡崎市における朝鮮人の営業者
一九三六年(昭和十一)六月十五日……………206

132 朝鮮人による軍用機献納運動
一九三七年(昭和十二)九月
一九四一年(昭和十六)四月……………207

133 朝鮮人志願兵制への応募者
一九三八年(昭和十三)二月十八日……………207

134 名古屋在住渡航者の生活報告
一九三九年(昭和十四)七月七日……………208

135 創氏改名の始まり
一九四〇年(昭和十五)二月九日……………209

136 瀬戸市における朝鮮人の状況
一九四一年(昭和十六)二月十五日……………210

137 愛知県在住朝鮮人の現状
一九四二年(昭和十七)八月三日……………213

第四節 中国人およびその他の外国人

138 名古屋の中国人居住街
一九二四年(大正十三)九月……………218

139 陸軍士官学校に入学する中国軍人
一九二七年(昭和二)十月一日……………220

140 中国人留學生の調査
一九三一年(昭和六)六月二日……………221

141 外国人の移住と労働の状況
一九三四年(昭和九)……………222

142 名古屋市居住のトルコ・タタール族
一九三六年(昭和十一)九月十三日……………223

143 日中戦争勃発による中国人の引揚げ
一九三七年(昭和十二)八月十八日……………224

144 東亜學生懇談会の開催
一九四一年(昭和十六)三月四日……………225

145	東亜青年塾の開設	1941年(昭和十六)六月十四日	226
-----	----------	------------------	-----

第六章 社会事業の展開

第一節 貧困問題の諸相

146	名古屋市内極貧者の生活	1924年(大正十三)七月二十三日	227
147	名古屋西部の不良住宅地区	1927年(昭和二)六月	228
148	名古屋市内貧困児童への学用品給与	1927年(昭和二)七月一日	230
149	愛知県内極貧者調査	1928年(昭和三)七月二十三日	230
150	不景気による世相の悪化	1930年(昭和五)五月六日	232
151	破産者の続出	1931年(昭和六)七月一日	234
152	失業者の増加	1932年(昭和七)二月九日	234
153	愛知県社会事業趨勢	1927年(昭和二)三月十五日	236
154	昭和恐慌による社会事業の資金難	1930年(昭和五)六月二十五日	241
155	県下の社会事業について	1933年(昭和八)四月十日	242

第二節 社会事業の拡大と限界性

156	名古屋厚生会館の沿革	1943年(昭和十八)十月	245
-----	------------	---------------	-----

第三節 方面委員の活動

157	方面委員の制度と活動	1925年(大正十四)	246
158	一宮方面事業助成会の創立	1927年(昭和二)六月	250
159	方面委員の労苦	1930年(昭和五)九月四日	250
160	救護法促進運動への参加	1930年(昭和五)十二月十日	252
161	軍事扶助と方面委員活動に関する件	1937年(昭和十二)九月十七日	255

第四節 民間事業に貢献した人々

162	坂文種報徳会の事業	1921年(大正十)一月	256
163	豊橋育兒院と青山衝天	1926年(大正十五)一月	256
164	愛知育兒院と小関正道	1929年(昭和四)十二月	259
165	伊藤次郎左衛門家と衆善会	1933年(昭和八)十一月	259
166	加藤清之助と豊ヶ岡可樂園	1937年(昭和十二)五月二十五日	264

第七章 戦争・軍隊と県民

第一節 軍隊の地域への影響

167	軍縮の実施と影響	一九二二年(大正十一)八月九日	267
168	軍縮後の帝國在郷軍人会丹羽郡連合分会の課題	一九二五年(大正十四)四月十七日	269
169	陸軍特別大演習被害の損害賠償	一九二九年(昭和四)一月九日	271
170	軍艦と民間船舶との衝突問題	一九三〇年(昭和五)二月二十二日	272
171	国防思想普及大講演会等開催の件	一九三一年(昭和六)九月十二日	273
172	満州事変・日中戦争時の在郷軍人日記抄	一九三一年(昭和六)九月 一九三八年(昭和十三)十一月	274

第二節 新聞報道と県民意識

173	日清戦争記念碑の移転問題	一九一九年(大正八)三月三十日	278
174	学校農園を荒らした兵隊への批判	一九二二年(大正十)八月二十一日	278
175	山東出兵時の美談記事	一九二八年(昭和三)五月十三日	280
176	山東出兵時の悲劇記事	一九二八年(昭和三)五月十五日	282
177	山東出兵時熱田神宮に莫大な賽銭	一九二八年(昭和三)五月二十日	282
178	新聞社後援の満州事変講演会	一九三一年(昭和六)十月十日	283
179	満州事変における「豊橋号」献納運動	一九三二年(昭和七)一月十四日	284
180	満州事変時の軍事救護願出に関する件	一九三二年(昭和七)四月二十日	284
181	日中戦争開戦時における県民の動向	一九三七年(昭和十二)七月十九日	285
182	第三師管内思想関係調査報告	一九四〇年(昭和十五)八月	286
183	シベリア出征第三師団将兵の死因	一九一九年(大正八)五月七日	289
184	山東出征軍人よりの通信	一九二八年(昭和三)九月一日	289
185	満州事変出征軍人の軍事便り	一九三二年(昭和七)三月一日	291
186	『満州派遣第三師団忠勇美譚』序文	一九三七年(昭和十二)八月五日	292
187	輜重兵第三連隊兵士の日中戦争従軍日記抄	一九三八年(昭和十三)八月、十月	294
188	シベリア出兵に関する丹羽郡長注意事項	一九一九年(大正八)六月五日	301
189	山東出兵に関する丹羽郡羽黒村尚武会決議事項	一九二八年(昭和三)五月二十一日	301
190	上海事変出征前病死兵の村葬	一九三二年(昭和七)四月一日	302

第四節 兵士と家族への援護と規制

191	満州事変における村の援護事業概況調控 一九三五年(昭和十)七月四日	305
192	入退営改善に関する件 一九三七年(昭和十二)七月十七日	305
193	日中戦争心召者家庭への十訓 一九三七年(昭和十二)八月十八日	306
194	日中戦争時の現役海軍軍人慰問 一九三八年(昭和十三)七月七日	307
195	銃後援強化週間額田郡下山村実施要綱 一九三八年(昭和十三)	308
196	「支那事変軍事後援寄附金芳名録」序文 一九三八年(昭和十三)十一月三日	311
197	尚武会の銃後奉公会への改称 一九三九年(昭和十四)四月一日	311
198	誉れの家『昭和荘』 一九四一年(昭和十六)八月六日	312

第八章 宗教と祭礼

第一節 宗教への意識

199	社会的変動と宗教 一九一九年(大正八)十月	313
200	農村の宗教(山崎延吉) 一九二七年(昭和二)四月十六日	316
201	既成宗教の混迷 一九二八年(昭和三)八月二十六日	318
202	「邪宗」への取締り 一九三三年(昭和八)二月一日	320

203	宗教教育実施への取り組み 一九三六年(昭和十一)一月十二日	320
204	特高に宗教係を設置 一九三六年(昭和十一)十月十七日	321
205	一九四〇年の宗教統計 一九四〇年(昭和十五)五月三十日	321
206	戦時体制下の宗教 一九四〇年(昭和十五)十月二十七日	322
第二節 諸宗教の動向		
一 神道と神社		
207	神饌弊帛料供進神社への指定 一九一九年(大正八)十一月 一九二〇年(大正九)二月	324
208	神道諸祭式の統一 一九二五年(大正十四)八月二十四日	325
209	時局に対応した神社祭祀 一九三六年(昭和十一)七月 一九三八年(昭和十三)四月	325
210	武運長久祈願祝詞 一九三七年(昭和十二)十一月一日	327
211	「聖地」を結ぶ鉄道の建設 一九三八年(昭和十三)六月二十九日	327
二 仏教		
212	愛知県仏教会の設立 一九二一年(大正十)十一月二日	328
213	僧侶の参政権獲得運動 一九二二年(大正十一)十二月二十四日	329

226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
灯台社「工ホバの証人」の布教 一九三三年(昭和八)七月十二日	小牧における信者獲得競争 一九三二年(昭和七)八月二十七日	如來教の発展 一九三〇年(昭和五)十月	大本教の教勢 一九二二年(大正十)五月十三日	外国人宣教師の排除 一九四〇年(昭和十五)八月八日	賀川豊彦の「神の国運動」 一九三〇年(昭和五)二月十八日	カトリック名古屋教区の発展 一九二七年(昭和二)十一月二十一日	米国の排日移民法への対応 一九二四年(大正十)七月一日	第一次大戦直後のプロテスタント教会の状況 一九一九年(大正八)二月十七日	臨戦体制における真宗大谷派の通達 一九四一年(昭和十六)十二月二十八日	占領地宣撫工作と観音像の交換 一九四一年(昭和十六)二月二十六日	新興仏教青年同盟と林靈法 一九三三年(昭和八)十月二十五日	盆踊りと仏教布教 一九三三年(昭和八)八月十四日
341	341	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329

238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227
第三師団の招魂祭 一九二六年(大正十五)四月	建国祭のはじまり 一九二五年(大正十四)四月十二日	西念寺の社会事業の衆善会への引継ぎ 一九三七年(昭和十二)四月五日	一灯園の無料診療活動 一九三六年(昭和十)十月一日	名古屋大谷派社会事業協会の設立 一九三五年(昭和十)七月十二日	愛知自啓会の少年保護施設 一九三四年(昭和九)五月十一日	財団法人名古屋同朋会代表者原宜賢の業績 一九三三年(昭和八)七月二十五日	不良少年救済に尽力する各宗派 一九三二年(昭和七)八月 一九三三年(昭和八)一月	墓地移転と社会事業への利用 一九二五年(大正十四)十月二十日	浄土宗慈友会の設立 一九一九年(大正八)十二月十四日	ひとのみち教団への弾圧 一九三七年(昭和十二)六月十九日	神道十三派による神道一致会の発会 一九三四年(昭和九)二月
356	355	354	352	350	348	346	344	344	343	342	342

第四節 国家による慰霊と祭典

第三節 宗教者による社会事業

239	御真影紛失事件と奉安庫の整備 一九二八年(昭和三)一月	357
240	大礼記念で御真影奉安所を設置 一九二八年(昭和三)六月九日	358
241	公的色彩を強める建園祭 一九二九年(昭和四)一月二十四日	359
242	愛知県招魂社の遷座造営 一九三一年(昭和六)十一月十八日	360
243	富士松村の護国神社建設 一九三六年(昭和十一)九月一日	361
244	招魂社制度の整備 一九三八年(昭和十三)三月 一九三九年(昭和十四)二月	362
245	愛知県護国神社の創設 一九三九年(昭和十四)四月一日	364
246	奉安殿建設への寄附金募集 一九四〇年(昭和十五)五月十五日	364
247	名古屋の職工賃金調査 一九二〇年(大正九)三月十一日	365
248	歳末を目前に職業紹介所へ来る人々 一九二二年(大正十一)十二月一日	367

第二編 近代後期の社会運動

第一章 労働者の状態と労働運動

第一節 労働者の状態

249	改正された新工場法 一九二六年(大正十五)六月二十六日	369
250	日清紡名古屋工場の深夜業廃止状況 一九二九年(昭和四)二月九日	370
251	恐慌期に労働者を脅かす減賃、減給、休業 一九三〇年(昭和五)七月十七日	372
252	日本陶器また百五十名を減賃 一九三一年(昭和六)三月十三日	373
253	伸びる「工業愛知」で工場法違反激増 一九三四年(昭和九)八月二日	373
254	賃上げ争議の嵐に防止会議 一九三七年(昭和十二)五月十九日	374
255	名古屋労働者協会の成立 一九二〇年(大正九)六月二十九日	376
256	日本製陶労働同盟の創立 一九二五年(大正十四)二月十六日	377
257	中部地方評議会の成立 一九二五年(大正十四)五月一日	378
258	豊橋合同労働組合の創立 一九二九年(昭和四)十二月七日	379
259	中部地方右翼労働組合会議の結成 一九二二年(昭和七)一月二十七日	379
260	総評中部地方評議会の大会議案 一九三三年(昭和八)三月二十八日	379
261	全協中部地方協議会の弾圧(一月事件) 一九三三年(昭和八)七月二十日	380

第二節 労働組合の組織と運動

一 労働組合の組織

273	服部紡績争議 一九二四年大正十三(四)月二十日	395
272	名古屋麻裏工争議 一九三三年大正十二(三)月	393
271	愛知時計電機争議 一九二一年(大正十)十月	390
	一 第一次大戦後の労働争議	
270	名古屋製陶労働組合の消費組合活動 一九三五年昭和十(七)月二十九日	389
269	第十五回名古屋統一メーデー 一九三四年昭和九(五)月二日	388
268	三菱航空機全協系労働者の職場活動 一九三二年昭和七(一)月二十七日	386
267	豊橋のメーデー 一九三一年昭和六(五)月二日	386
266	名古屋最初のメーデー、鶴舞公園で挙行 一九三三年大正十二(五)月二日	384
265	官労向上会の軍縮失業反対デモ 一九二二年大正十一(一)月三十日	383
264	全評中部地方評議会の潰滅 一九三七年昭和十二(二)月二十三日	382
263	愛国労働団体の統一運動状況 一九三五年昭和十(一)月二十日	381
262	名古屋地方労働組合同議(左翼)結成大会 一九三四年昭和九(四)月十二日	381

277	愛知木管争議 一九三〇年昭和五(七)月六日	403
278	三信鉄道工事争議 一九三〇年昭和五(七)月 八月	404
279	鈴木ヴァイオリン争議 一九三〇年昭和五(八)月 九月	405
280	田村製糸争議 一九三一年昭和六(五)月	406
281	中京伸銅争議 一九三一年昭和六(八)月八日	408
282	大日本紡績一宮工場争議 一九三二年昭和七(四)月 五月	408
283	名古屋メリヤス争議 一九三二年昭和七(六)月	410
284	愛知製綿争議 一九三三年昭和八(三)月十一日	411
285	三菱航空機名古屋製作所争議(臨時工問題) 一九三五年昭和十(一)月一日	411
286	豊川鉄道争議(日本主義労働運動) 一九三七年昭和十二(一)月五日	414
287	日中戦争勃発下の愛知時計電機争議 一九三九年昭和十四(三)月二十二日	417
276	佐久間製糸争議(豊橋) 一九二七年昭和二(五)月	401
275	瀬戸陶工争議 一九二七年昭和二(一)月	399
274	亜細亜製靴争議 一九二六年大正十五(五)月 八月	397
	二 昭和恐慌以降の労働争議	

第二章 農民問題と農民運動

第一節 農民組合

288	東海農民組合名古屋大会 一九二四年(大正十三年)二月二十三日	421
289	日本農民組合中部同盟発会式(岐阜) 一九二四年(大正十三年)四月二十一日	422
290	日本農民組合の講演会 一九二六年(大正十五年)三月十五日	424
291	中部農民組合の声明 一九二六年(大正十五年)十二月八日	425
292	東海農民組合の創立 一九二七年(昭和二年)三月十八日	426
293	農民運動の状況 一九三一年(昭和六年)三月二十日	427
294	愛知の全農全国会議派の状況 一九三二年(昭和七年)九月	428
295	愛知皇国農民組合の運動 一九三七年(昭和十二年)五月二十四日	430

第二節 地主組合

296	地主と小作 一九一九年(大正八)一月	433
297	地主懇談会における小作問題の対策 一九二〇年(大正九年)十二月二十二日	435
298	富貴村地主会 一九二二年(大正十一年)三月	437
299	県農会の地主懇談会開催 一九二二年(大正十一年)三月二十三日	438
300	郡長訓示 地主会の組織について 一九二二年(大正十一年)七月二十八日	439
301	地主の争議研究 農事協会名古屋支部設立 一九二二年(大正十一年)五月二十一日	440
302	名古屋の地主が利用組合組織 一九二四年(大正十三年)四月十六日	441
303	犬山の地主組合組織 一九二五年(大正十四年)五月十三日	441
304	地主会社の設立 一九二八年(昭和三年)三月	442

第三節 小作争議

305	掟米紛擾の増加傾向 一九一九年(大正八)二月十五日	444
306	産米検査について(投稿) 一九一九年(大正八)十二月四日	444
307	鳴海小作争議への一視点 一九二二年(大正十一年)五月十五日	446
308	八名郡三上村争議 一九三三年(大正十二年)二月二十日	450
309	愛知県小作問題の概要 一九二八年(昭和三年)三月	452
310	東春日井郡味岡村の争議調停 一九二八年(昭和三年)三月	454
311	楽田村 御料林払下と掟米問題 一九二九年(昭和四年)二月十日	457
312	城東村小作争議調停の成立 一九三〇年(昭和五年)十一月	458
313	争議関係者減刑陳情書 一九三二年(昭和七年)三月十六日	459

314	日中戦争下の味岡村小作争議 一九三七年(昭和十二)十二月二十二日	459
第四節 多様化する争論		
315	下ノ一色と木曾岬の漁業権争い 一九二〇年(大正九)六月五日	460
316	千天に水争いの動き 一九二四年(大正十三)六月二十七日	461
317	村のおきてと営業の自由 一九二六年(大正十五)十月十三日	462
318	漁民、水力発電に寄付金要求 一九二七年(昭和二)十月二十一日	463
319	土地の無断担保に村民怒る 一九二九年(昭和四)二月十五日	464
320	青物騒動への農民の対応 一九三〇年(昭和五)十二月八日	465
321	七宝尋常高等小学校の盟休事件 一九三一年(昭和六)十一月一日	466
322	海部郡の大井戸事件 一九三四年(昭和九)七月十七日	467
323	三河の煙草栽培反対運動 一九三八年(昭和十三)五月一日	468
第三章 左翼無産運動と右翼運動		
第一節 無産政党運動		
324	無産政党期成同盟演説会の盛会 一九二五年(大正十四)八月十五日	469

325	名古屋に生れた政治研究会 一九二五年(大正十四)九月十五日	470
326	労働農民党愛知県支部の創立 一九二六年(大正十五)七月十三日	470
327	分裂した労働農民党 一九二六年(大正十五)十一月	471
328	普選後最初の県議選(山崎常吉の当選) 一九二七年(昭和二)九月二十七日	472
329	社会民衆党名古屋支部の発会 一九二八年(昭和三)三月二十六日	473
330	日本大衆党名古屋支部の創立 一九二九年(昭和四)一月十三日	474
331	普選後最初の名古屋市議選結果 一九二九年(昭和四)十月	474
332	愛知無産党の結成 一九三〇年(昭和五)一月二十四日	475
333	無産党共同戦線から荒谷宗治の立候補 一九三〇年(昭和五)二月一日	475
334	名古屋民衆党の成立と日本大衆党の分裂 一九三〇年(昭和五)六月十五日	476
335	社会民衆党愛知支部連合会の結成 一九三〇年(昭和五)十月一日	477
336	社会大衆党名古屋支部の創立 一九三二年(昭和七)十二月十七日	477
337	昭和七年の名古屋地方無産運動を顧みる 一九三二年(昭和七)十二月二十九日	478
338	社会大衆党名古屋支部市議選打合せ 一九三三年(昭和八)九月三十日	480
339	山崎常吉の日本主義への転向 一九三五年(昭和十)六月二十日	481

340 社会大衆党支持の名古屋市民クラブ
一九三六年(昭和十一年)十月二十九日……………482

第二節 左翼運動

341 名古屋共産党事件(エルビー事件)
一九二四年(大正十三年)……………483

342 名古屋共産青年同盟の活動
一九二五年(大正十四年)……………485

343 獄窓の同志から(二・一五事件被告の手紙)
一九二九年(昭和四年)一月十一日……………486

344 岡崎師範の社会科学研究会の防空演習反対
一九二九年(昭和四年)七月……………486

345 軍事教練反対ピラ
一九三〇年(昭和五年)三月十五日……………488

346 第八高等学校の左翼運動と弾圧
一九三一年(昭和六年)三月二十日……………488

347 共産党四・一六検挙の初公判
一九三一年(昭和六年)四月三日……………489

348 豊橋における社会運動の歴史
一九三二年(昭和七年)十二月六日……………490

349 共産党員、労働者・農民の大検挙(二・二八事件)
一九三三年(昭和八年)二月十日……………492

350 名古屋で最初の無産者診療所
一九三三年(昭和八年)八月一日……………493

351 愛知共産党二・二五事件の全貌
一九三四年(昭和九年)十二月二十四日……………494

352 人民戦線運動と石川友左衛門
一九三八年(昭和十三年)十二月二十七日……………495

353 人民戦線運動と赤松勇
一九三八年(昭和十三年)十二月二十七日……………499

354 前衛劇場の名古屋公演
一九二八年(昭和三年)三月四日……………500

355 名古屋に生まれたプロ芸術連盟
一九三〇年(昭和五年)六月十二日……………501

356 新美術座の新興大衆劇進出
一九三〇年(昭和五年)六月頃……………502

357 新美術座のプロット加盟
一九三〇年(昭和五年)九月十日……………503

358 前衛座のメーデー準備公演
一九三二年(昭和七年)五月一日……………503

359 プロレタリア演劇研究所の開講
一九三二年(昭和七年)六月三日……………504

360 プロレタリア科学豊橋支部準備会
一九三二年(昭和七年)八月十日……………505

361 名古屋ポロ社のプロレタリア文化運動
一九三六年(昭和十一年)十二月……………506

362 西三無産者芸術連盟の運動
一九三八年(昭和十三年)六月……………508

第四節 右翼運動

363 国粋会名古屋支部
一九一九年(大正八年)十二月二十二日……………509

364 国粋会愛知県本部発会式
一九二二年(大正十一年)五月一日……………509

365 名古屋で建国祭
一九二五年(大正十四年)十二月二十一日……………510

366 立憲愛国会の発会式
一九三〇年(昭和五年)十月二十二日……………511

367	新興日本青年党結党式 一九三一年(昭和六)八月二日	512
368	国家社会党名古屋支部発会式 一九三二年(昭和七)十一月八日	512
369	国家社会党愛知県支部結党式 一九三四年(昭和九)十月三十日	513
370	愛国団体協議会 一九三四年(昭和九)十二月二十日	513
371	日本革新党愛知県連と山崎常吉 一九三九年(昭和十四)五月六日	514

第四章 反戦・反軍運動と平和論

第一節 兵役への異議

372	シベリア凱旋兵の退廃 一九一九年(大正八)六月二十日	515
373	初年兵の反抗 一九二二年(大正十)二月六日	516
374	夜間脱走の増加 一九二二年(大正十)五月二十八日	517
375	新兵いじめの古兵に厳罰 一九二二年(大正十)三月二日	518
376	さまざまな兵役逃れ 一九二三年(大正十)三月三十日	519
377	騎兵二六連隊予備兵の殴打事件 一九二四年(大正十)八月三日	519

378	野砲三連隊の上官暴行事件公判 一九二七年(昭和二)二月一日	521
379	キリスト教信者の兵役拒否 一九三二年(昭和七)六月二十八日	521
380	徴兵逃れに懲役求刑 一九三三年(昭和八)九月十四日	522
381	断食して徴兵逃れ 一九三四年(昭和九)九月二日	522
382	徴兵検査逃亡者つづく 一九三五年(昭和十)五月十七日	523
383	徴兵逃れへの徹底捜査 一九三九年(昭和十四)四月二十六日	524
384	徴兵逃れに懲役一年の判決 一九四一年(昭和十六)七月十八日	524

第二節 反軍・反戦行動と抵抗

385	対支非干渉同盟の結成と活動 一九二七年(昭和二)六月	525
386	山東出兵反対の叫び 一九二八年(昭和三)五月二十日	526
387	山東出兵反対ピラ配布に對しての弾圧 一九二八年(昭和三)五月	527
388	出征兵士の解雇反対 一九二八年(昭和三)六月六日	528
389	第三師団動員と民衆の動き 一九二八年(昭和三)七月	529

402	401	400	399	398	397	396	395	394	393	392	391	390
日中戦争第三年度の反戦言動 一九三九年(昭和十四)一 九月	日中戦争第二年度の反戦言動 一九三八年(昭和十三)三 九月	日中戦争開始期の反戦言動 一九三七年(昭和十二)八 十一月	流言蜚語の取締り 一九三七年(昭和十二)八月二十六日	青木文治の入営免除運動 一九三四年(昭和九)一月二十日	昭和八年の中部地評などの反戦運動 一九三三年(昭和八)九月二十日	鶴舞公園の兵器献納式に反戦ピラ 一九三三年(昭和八)十二月二十一日	満州事変一周年に反戦行動 一九三二年(昭和七)九月二十日	第三師団施設への反戦落書 一九三二年(昭和七)五月十五日	満州事変直後の反戦ピラ 一九三一年(昭和六)九月二十五日	半田の左翼新聞の反戦キャンペーン 一九三〇年(昭和五)五月三十日	豊橋市内の反軍活動 一九三〇年(昭和五)一月十一日	名古屋市内の反戦活動 一九二九年(昭和四)一月十日
540	539	537	536	536	535	534	533	533	532	531	531	531

412	411	第五章 市民・住民の運動		410	409	408	407	406	405	404	403	
労働者も参加、普選集会 一九二〇年(大正九)二月十六日	初の普選選挙要求集会に六千 一九一九年(大正八)二月十日	第一節 普通選挙運動	第三節 国際交流と軍国主義批判	桐生悠々『他山の石』の戦争批判 一九三七年(昭和十二)八月	『豊橋大衆新聞』のファシズム批判(論説) 一九三三年(昭和八)五月	日米少年赤十字団の交流 一九三四年(昭和九)二月六日	山東出兵撤兵論(論説) 一九二七年(昭和二)七月二十日	青い目・黒い目の人形 一九二七年(昭和二)三 九月	名古屋キリスト教学生連盟主催の平和講演会 一九二七年(昭和二)二月二十六日	軍事教練のあり方(論説) 一九二四年(大正十三)十二月二十日	第二節 国際交流と軍国主義批判	日中戦争第四年度の反戦言動 一九四〇年(昭和十五)一 九月
558	557			553	549	548	547	545	544	543		542

424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414	413
名古屋の電気料値下げ運動 一九三〇年(昭和五)十二月十五日	知多郡の電気料値下げ運動 一九二九年(昭和四)十二月三十一日	西三河の電気料値下げ運動 一九二八年(昭和三)九月十八日	豊橋の電気料値下げ問題解決 一九二一年(大正十)十月二十五日	名古屋の電気料値下げ演説会 一九二一年(大正十)八月十七日	豊橋の電気料値下げ市民大会 一九二一年(大正十)八月十七日	普通選挙法成立祝賀会 一九二五年(大正十四)四月五日	豊橋の普選断行市民大会 一九二三年(大正十二)二月二十五日	東海普選断行連盟の演説会 一九二三年(大正十二)二月十三日	一宮の普選要求演説会 一九二二年(大正十一)二月二十四日	初の普選選挙要求デモに数千 一九二二年(大正十一)二月十三日	東海普選記者団の結成と活動 一九二〇年(大正九)三 六月
572	570	569	568	567	566	564	564	563	562	561	559

第二節 電気料金値下げ運動

一 戦後不況期の電価値下げ運動

436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425
豊橋市民への訴え 一九三四年(昭和九)三月五日	反対大会後市役所へ 一九三四年(昭和九)二月二十六日	人造羊毛工場反対同盟の結成 一九三三年(昭和八)十二月十日	硫黄工場反対同盟の活動 一九三四年(昭和九)八月九日	セロファン工場に反対し県庁へ 一九三四年(昭和九)六月八日	化学工場設置反対運動と県の対応 一九三四年(昭和九)三月三十一日	東海曹達による農作物被害 一九二三年(大正十二)七 八月	日本陶器の煤煙に防止同盟 一九二一年(大正十)五月六日	豊橋電価争議の解決 一九三一年(昭和六)十一月一日	豊橋電価争議の激化と廢灯戦術 一九三一年(昭和六)五月二十四日	豊橋電価争議の市民的拡大 一九三一年(昭和六)三月三十一日	豊橋左翼政党の電気値下げ運動 一九三一年(昭和六)三月十六日
584	584	583	582	581	580	579	578	576	575	573	573

第三節 公害反対・環境保護運動

一 化学工業の進出と反対運動

二 豊橋人毛争議

448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437
自転車税撤廃県民大会(一九三二年)	自転車税撤廃期成同盟の活動(一九二八年)	豊橋の自転車税撤廃運動	地域左翼新聞の成岩町政批判	安城町政革新演説会	岩倉町政革新演説会	人造絹糸工場建設反対決議	建設断念に対して豊橋市民への礼状(ピラ)	長期継続する反対運動	漁民の妻から住民の妻へ	人毛工場建設反対の歌	反対同盟の市内デモ
一九三一年(昭和六)八月七日	一九二八年(昭和三)十二月十日	一九二七年(昭和二)十二月二十三日	一九三〇年(昭和五)五月三十日	一九二六年(大正十五)五月二十五日	一九一九年(大正八)二月二十四日	一九三七年(昭和十二)六月六日	一九三四年(昭和九)九月八日	一九三四年(昭和九)三月二十八日	一九三四年(昭和九)	一九三四年(昭和九)	一九三四年(昭和九)三月十五日
594	594	593	592	591	591	590	589	589	588	586	586

第四節 地域民衆の諸運動

一 地域行政の民主化運動

460	459	458	457	456	455	454	453	452	451	450	449
消費組合の大衆化への努力	日消連大会への報告書	消費組合の米よこせ運動	名古屋消費組合の発足	家賃値下げ勝利のピラ	借家人運動の共同戦線	犬山借家人組合の活動	借家調停法実施祝賀演説会	新栄借家人同盟会大会	高家賃と行政の無策	授業料徴収反対市民大会	授業料徴収反対演説会
一九三五年(昭和十)八月十三日	一九三三年(昭和八)四月二十五日	一九三二年(昭和七)九月二十日	一九三一年(昭和六)四月二十六日	一九二九年(昭和四)十一月二十五日	一九二九年(昭和四)十一月十六日	一九二八年(昭和三)八月二十九日	一九二五年(大正十四)四月十四日	一九三三年(大正十二)二月十七日	一九二二年(大正十一)九月十四日	一九三五年(昭和十)二月十九日	一九三四年(昭和九)六月二十七日
605	603	602	602	601	600	599	599	598	597	596	595

四 消費者運動

第六章 女性運動の諸相

第一節 社会問題・組織活動への模索

461	婦人問題研究会の尾崎行雄講演 一九二〇年(大正九)二月二十三日	607
462	名古屋市女教員の多彩な意見 一九二〇年(大正九)九月十日	608
463	新婦人協会名古屋支部設置をめぐって 一九二〇年(大正九)十二月三日	609
464	治安警察法第五条改正後の婦人政談演説会 一九二二年(大正十一)五月十二日	611
465	社会主義者田所八重子の来名 一九三三年(大正十二)七月十四日	615
466	一九二六年婦人団体一覽表 一九二六年(大正十五)十一月一日	616
467	女人芸術名古屋講演会 一九三〇年(昭和五)三月一日	618
468	産児制限の理論と実践講演会 一九三一年(昭和六)二月六日	621
469	『婦人公論』読者の結婚観 一九三四年(昭和九)十一月一日	622
470	『婦人文芸』名古屋支部通信 一九三六年(昭和十一)三月一日	624
471	福岡楼娼妓のストライキ 一九二四年(大正十三)五月二十九日	625
472	徳栄楼娼妓の自由廃業 一九二六年(大正十五)九月十三日	625

第二節 遊廓への異議申し立て

473	元公娼松村喬子の廃娼の主張 一九二八年(昭和三)二月二十二日	628
474	県会初の公娼廃止請願 一九二八年(昭和三)十二月九日	631
475	愛知県廃娼期成同盟の発会 一九三一年(昭和六)六月十日	631
476	名古屋女子労働者の位置 一九三〇年(昭和五)三月一日	633
477	民衆婦人同盟名古屋支部創立 一九三〇年(昭和五)五月十八日	634
478	民衆婦人同盟名古屋支部第二回大会 一九三一年(昭和六)七月二十五日	635
479	内外紡績紛議の解決 一九三二年(昭和七)九月二十日	636
480	名古屋友の家の事業 一九三三年(昭和八)一月一日	637
481	昭和毛糸紡績弥富工場罷業団声明書 一九三四年(昭和九)六月十五日	639
482	婦人参政権問題研究会の会合 一九一九年(大正八)二月二十四日	644
483	女子参政権について女学生的主張 一九二九年(昭和四)十二月二十日	645
484	犬養総裁他政治家訪問記 一九三〇年(昭和五)一月十日	646
485	女子青年団の参政運動参加規制 一九三一年(昭和六)一月十四日	649
486	第四節 婦人参政権要求の周辺	

第三節 無産女性の困難と運動

486	全国小学校女教員大会傍聴記 一九三四年(昭和九)六月十日	650
487	婦選獲得愛知県支部発会 一九三五年(昭和十)八月九日	652
第七章 マイノリティの社会運動		
第一節 被差別部落の社会運動		
一 融和・改善事業の展開		
488	被差別部落への救済策方針 一九一九年(大正八)七月十五日	653
489	愛知県社会事業協会の事業計画 一九二九年(昭和四) 一九三二年(昭和七)	654
490	国民融和日実施要領 一九三四年(昭和九)三月九日	656
491	被差別部落と更生計画 一九三七年(昭和十二)三月一日	657
492	同和奉公会愛知県本部の設立 一九四二年(昭和十七)二月一日	659
二 水平社の創立と展開		
493	愛知県水平社の創立大会 一九三二年(大正十一)十一月十一日	659
494	水平社の官憲糾弾演説会 一九三二年(大正十一)十二月九日	660
495	水平運動の分裂 一九二六年(大正十五)十一月十三日	661

496	全国水平社解放連盟の結成 一九二七年(昭和二)八月十五日	662
497	海部郡水平社の融和運動批判 一九二七年(昭和二)九月二十五日	664
498	水平運動統一の主張 一九二九年(昭和四)二月一日	664
499	全国水平社第八回大会の名古屋開催 一九二九年(昭和四)十二月十六日	664
500	全水愛知県連合会大会 一九三一年(昭和六)十一月二十五日	665
501	愛知県水平社の解散 一九四〇年(昭和十五)八月二十六日	666
三 軍隊内における反差別のたたかい		
502	名古屋練兵場における北原泰作直訴事件 一九二七年(昭和二)十一月二十六日	667
503	豊橋十八連隊事件 一九三〇年(昭和五)六月	669
第二節 在留朝鮮人の社会運動		
一 融和団体の成立と展開		
504	相愛会名古屋本部總會 一九三三年(大正十二)七月十四日	671
505	相愛会と豊橋合同労組の抗争事件 一九三〇年(昭和五)五月十三日	671
506	名古屋協和会の設立 一九三二年(昭和七)十二月二十一日	673
507	在留朝鮮人融和事業団体の概況 一九三二年(昭和七)	673

520	民族復興会の独立運動 一九四〇年(昭和十五)	684
519	名古屋合同労働組合再建運動 一九三八年(昭和十三)	683
518	選挙に対する左翼朝鮮人の活動 一九三六年(昭和十一)	682
517	名古屋合同労働組合を中心とする活動 一九三六年(昭和十一)	681
516	職員解雇をめぐる名古屋市と朝鮮人労働者の対立 一九三五年(昭和十)十月十七日	680
515	半島青年団の設立 一九三三年(昭和八)十一月十二日	679
514	新幹会解散後の民族主義運動 一九三二年(昭和七)九月	679
513	新幹会による朝鮮労働組合の設立 一九二九年(昭和四)九月二十八日	678
512	愛知県協和会の活動 一九三九年(昭和十四)九月九日	677
511	愛知県協和会協和事業手帳 一九三九年(昭和十四)七月十五日	676
510	協和会設立準備協議会 一九三五年(昭和十)十月二十六日	675
509	県社会課による朝鮮人団体統合問題 一九三四年(昭和九)八月十八日	675
508	徴兵令実施を主張する朝鮮義勇団 一九三三年(昭和八)二月一日	674

三 在留朝鮮人の教育運動

524	朝鮮人学校への廃校命令 一九三六年(昭和十一)三月二十八日	692
523	愛知県における朝鮮人学校の状況とその取締り 一九三五年(昭和十)十月二十日	690
522	名古屋における在留朝鮮人学校の設置状況 一九三五年(昭和十)八月二十四日	688
521	朝鮮普成学院の学則と教化事業実行方案 一九三一年(昭和六)八月	686
525	同仁会愛知支部の設立 一九二〇年(大正九)二月二十八日	693
526	孫文の追悼会 一九二五年(大正十四)三月二十六日	694
527	在留中国人理髪師による協愛会の設立 一九二五年(大正十四)十一月九日	694
528	中華民国僑日名古屋学工商連合会の設立 一九二六年(大正十五)二月二十一日	695
529	中国革命をめぐる中国人の争闘 一九二七年(昭和二)七月七日	697
530	汪兆銘政権と愛知県華僑連合会 一九四一年(昭和十六)七月二日	698

第一章 総力戦下の県民生活

第二編 総力戦下の県民生活と地域社会

第一節 戦時生活の現実

531	学生の娯楽抑制 一九四〇年昭和十五(八月三十日)……………	699
532	門前署管内の妾調査 一九四〇年昭和十五(九月二十五日)……………	701
533	疲労防止と回復にヒロボン(広告) 一九四三年昭和十八(九月四日)……………	702
534	買出しや吉良邸討入り日の所感(小出幸雄日記) 一九四三年昭和十八(十二月十四日)……………	702
535	戦時生活推進状況報告 一九四四年昭和十九(六月十三日)……………	703
536	野荒し窃盗の増加 一九四四年昭和十九(九月三十日)……………	704
537	勤労学徒の感想 一九四四年昭和十九(九月三十日)……………	706
538	老幼・妊婦の疎開受け入れ 一九四四年昭和十九(十一月十二日)……………	706
539	戦災罹災者・疎開者調査 一九四五年昭和二十(四月十六日)……………	707
540	一九四五年四月の新聞投書総括 一九四五年昭和二十(五月二日)……………	707
541	食糧も決戦様相 一九四五年昭和二十(五月十四日)……………	709
542	一九四五年半田の工場生活 一九四五年昭和二十(七月八月)……………	710
543	小学生の「一日入営」 一九四〇年昭和十五(十二月二十三日)……………	712

第二節 女性と子どもの戦争総動員

544	国民学校児童の所感調査 一九四三年昭和十八(二月一日)……………	713
545	主婦責任と勤労報国 一九四三年昭和十八(十二月五日)……………	716
546	自動車工場男女工員の比較 一九四四年昭和十九(六月六日)……………	717
547	家庭婦人も残らず兵器増産へ 一九四四年昭和十九(八月二十四日)……………	718
548	豊川海軍工廠勤労学徒の日記抄 一九四五年昭和二十(四月六月)……………	721
549	人口政策のための家族調査 一九四一年昭和十六(二月二十四日)……………	726
550	生むことが御奉公 一九四二年昭和十七(十二月十五日)……………	727
551	結婚相談所申込みにみる男女の意向 一九四三年昭和十八(六月四日)……………	728
552	形埜村隣保事業の概要 一九四三年昭和十八(九月頃)……………	730
553	出征軍人家族の交流 一九四四年昭和十九(二月十五日)……………	731
554	山崎多比良「傷心私唱」 一九四五年昭和二十(八月)……………	732
555	部落会 町内会へ指導監督の強化 一九四一年昭和十六(十一月十八日)……………	735
556	毎月の常会徹底事項を政府が決定 一九四一年昭和十六(十二月十八日)……………	736
557	第四節 過重化する町内会の業務と深まる混迷	

577 名古屋市内会に専任職員
一九四二年昭和十七)十一月
一九四三年(昭和十八)二月
738

558 糞尿・塵芥の処理を町内会で実施(名古屋市内)
一九四三年(昭和十八)八月二十九日
740

559 郵便物の配達を町内会に委託
一九四三年(昭和十八)十二月十四日
741

560 過大な町内会入会金を強要
一九四四年(昭和十九)六月四日
741

561 独断で自分に月給を払う町内会長
一九四四年(昭和十九)七月八日
743

562 隣組常会不振の原因と対策
一九四四年(昭和十九)九月十二日
743

563 煙草配給についての隣組での工夫
一九四四年(昭和十九)十一月二日
745

第五節 総力戦下の農村

564 部落組常会に関する事項
一九四〇年(昭和十五)十一月頃
747

565 部落組織の整備状況
一九四〇年(昭和十五)十二月二十三日
748

566 罌粟栽培講習会開催の件
一九四一年(昭和十六)九月十九日
749

567 大陸の花嫁の訓練
一九四一年(昭和十六)十月八日
750

568 煙草吸殻蒐集運動に関する件
一九四一年(昭和十六)十一月頃
751

569 芋食つてでも割当を完納
一九四三年(昭和十八)三月二十七日
751

570 増産へ皇国農村
一九四三年(昭和十八)九月二十八日
752

571 海南島開拓団
一九四三年(昭和十八)九月三十日
752

572 旧正月を廃止し新正月へ移行のこと
一九四三年(昭和十八)十二月
753

573 勝ちぬくため供出の山
一九四四年(昭和十九)一月五日
754

574 満州東三河郷の現況
一九四四年(昭和十九)一月三十日
754

575 低収特別指導組合指定で奮起
一九四四年(昭和十九)五月九日
755

576 ヒマ成育状況中間報告依頼の件
一九四四年(昭和十九)七月六日
756

577 産米穀早期出荷について
一九四四年(昭和十九)十月三十日
757

第二章 戦時動員の強化

第一節 国民の戦意と戦争協力

578 対米英戦争開戦と当日の情況
一九四一年(昭和十六)十二月九日
759

579 戦争協力に動く宗教界
一九四一年(昭和十六)十二月二十四日
760

580 禅宗妙興寺の満州開拓応援作業隊派遣
一九四二年(昭和十七)八月十一日
761

581 児童への神祇教育実施協議会
一九四二年(昭和十七)八月十九日
762

582 翼賛文化連盟の文化常会開催
一九四二年(昭和十七)十一月十五日
763

583	米英指導者を獄門台へ	一九四三年(昭和十八)三月二十六日	764
584	名古屋における聖旨奉戴キリスト教大会	一九四三年(昭和十八)五月二十七日	764
585	パーマネント廃止と女性の行動	一九四三年(昭和十八)九月三十日	765
586	買出し部隊の取締り	一九四四年(昭和十九)一月十八日	766
587	サイパン島陥落後の必勝体制	一九四四年(昭和十九)七月十九日	767
588	大政翼賛会明治村支部の総決戦常会	一九四四年(昭和十九)十一月四日	769
589	献納飛行機の命名式	一九四五年(昭和二十)四月六日	770

第二節 軍隊への動員と援護活動

590	フィリピンにおける戦死者への弔文	一九四二年(昭和十七)七月二十八日	771
591	戦死者遺骨の返還について	一九四三年(昭和十八)七月四日	772
592	入隊・入団・応召者用「国旗」配給に関する件	一九四四年(昭和十九)	773
593	中国戦線における戦病死者病歴書	一九四四年(昭和十九)七月三十日	773
594	靖国神社招魂祭当日の地方式典	一九四四年(昭和十九)十月二十三日	774
595	額田郡形埜村統後奉公会概況書	一九四五年(昭和二十)一月	776
596	北設楽郡稲武町戦没者公葬執行に関する件	一九四五年(昭和二十)三月二十三日	778

597	入営直前学徒の心境	一九四五年(昭和二十)三月三十日	779
598	国民義勇隊の焦土整理活動	一九四五年(昭和二十)四月十七日	779
599	本土決戦用陣地構築への動員	一九四五年(昭和二十)七月三日	780

第三節 産業報国会の活動

600	労資整調懇談会の発表	一九三七年(昭和十二)十月二十日	783
601	労資整調をめぐる実施促進懇談会	一九三七年(昭和十二)十二月十七日	785
602	産業報国会の発足	一九三九年(昭和十四)三月三日	787
603	産業報国会の組織拡大	一九三九年(昭和十四)九月二十二日	787
604	産業報国半田支部総会	一九三九年(昭和十四)十二月十日	788
605	愛知県産業報国連合会の結成	一九四一年(昭和十六)九月二十日	788
606	愛知県産業報国会	一九四二年(昭和十七)三月三十一日	789
607	労働環境の改善要綱(東邦瓦斯産報)	一九四三年(昭和十八)十月	791
608	職場常会(中島飛行機半田製作所)	一九四四年(昭和十九)十一月十日	792
609	空襲時の補償や手当の規定	一九四五年(昭和二十)一月十日	793

第四節 徴用の強化と女子勤労挺身隊

一 徴用の強化と実態

610	徴用援護強化運動	794
	一九四三年(昭和十八)十一月二十六日	
611	年末年始の軍需工場労働者の就労状況	795
	一九四四年(昭和十九)二月二十日	
612	これによいか 応徴(本徴用工)の寮生活	797
	一九四四年(昭和十九)九月十八日	
613	尾張時計計航空機上飯田工場における徴用者の抗議	799
	一九四四年(昭和十九)十一月十日	
	二 女子勤労挺身隊	
614	県の女子勤労挺身隊編成方針	800
	一九四三年(昭和十八)十月十三日	
615	女子青年団勤労挺身隊の壮行会	801
	一九四四年(昭和十九)一月七日	
616	女学校新卒業生の勤労挺身隊壮行式	802
	一九四四年(昭和十九)一月十四日	
617	芸妓さんら勤労報国隊を結成	803
	一九四四年(昭和十九)三月七日	
618	女子勤労挺身隊員の農繁期一時帰農許可願	804
	一九四四年(昭和十九)五月六日	
	第五節 植民地民衆と戦時動員	
619	軍需工場に率先参加せよ	806
	一九四一年(昭和十六)十月二十四日	
620	名古屋市内軍需工場の朝鮮人労働者四百名突破	808
	一九四二年(昭和十七)十月二十六日	

621 一九四二年の朝鮮人移入労働者の状況

一九四二年(昭和十七)三月 六月

622 朝鮮服の街頭取締り

一九四二年(昭和十七)十月一日

623 貯蓄報国への動員

一九四二年(昭和十七)十一月十七日

624 朝鮮人への徴兵実施

一九四三年(昭和十八)二 八月

625 愛知航空機における徴用朝鮮人の動向

一九四四年(昭和十九)六月十日

626 農業労働者としての朝鮮人動員

一九四四年(昭和十九)六月十六日

627 朝鮮女子勤労挺身隊の献身

一九四四年(昭和十九)八月十四日

628 朝鮮女子勤労挺身隊員の殉職

一九四四年(昭和十九)十二月

第三章 本土空襲と戦時災害

第一節 初空襲と緊張する住民

一 四・一八初空襲の混乱

629 名古屋商業学校生徒の4・18空襲体験

一九四二年(昭和十七)四月十八日

630 4・18空襲の報道

一九四二年(昭和十七)四月十九日

631 新美南吉が記録した流言

一九四二年(昭和十七)四月二十四日

二 近づく空襲に不安と対策

632 東山動物園の猛獣対策
一九四三年(昭和十八)七月
一九四四年(昭和十九)十二月..... 820

633 女生徒の救護訓練
一九四三年(昭和十八)十二月九日..... 821

634 勸奨から強制する疎開へ
一九四四年(昭和十九)四月二十六日..... 822

635 北九州空襲後の防空強化
一九四四年(昭和十九)六月十七日..... 823

636 非常炊出し体制
一九四四年(昭和十九)七月五日..... 823

637 地方有識者の空襲を記録する決意
一九四四年(昭和十九)十一月二十三日..... 824

638 隣組の防空準備(隣組長としての記録)
一九四四年(昭和十九)十二月二十一日..... 825

第二節 空襲体験と住民の被害

一 名古屋空襲と市民の被害

639 12・13 三菱発動機初爆撃(小学校教師の記録)
一九四四年(昭和十九)十二月..... 826

640 空襲殉職者弔慰金の配慮
一九四四年(昭和十九)十二月十七日..... 827

641 12・18 三菱航空機爆撃と救出ルポ
一九四四年(昭和十九)十二月十九日..... 828

642 1・3 初の市街地空襲(専門学校生徒の手記)
一九四五年(昭和二十)二月三日..... 828

643 3・11 夜間初空襲(小学校教師の記録)
一九四五年(昭和二十)三月..... 830

644 焼夷弾でわが家炎上(3・11空襲、記者の体験)
一九四五年(昭和二十)三月十三日..... 832

645 わが家の焼け跡を見よ(衆議院議員の被災)
一九四五年(昭和二十)三月二十三日..... 833

646 3・19 空襲の焦土(専門学校生徒の感慨)
一九四五年(昭和二十)三月二十四日..... 833

647 3・24 無差別爆撃の被害(千種区田代町)
一九四五年(昭和二十)三月二十五日..... 835

648 疎開中の娘に知らせる母の爆死(4・7空襲)
一九四五年(昭和二十)三月..... 836

649 名古屋城炎上と軍による消火活動(5・14空襲)
一九四五年(昭和二十)五月十四日..... 838

650 二 焦土にされた豊橋・岡崎・一宮
6・19 豊橋空襲に敗戦を予感【豊田珍彦日記】
一九四五年(昭和二十)六月..... 839

651 7・12 一宮空襲被害の反省
一九四五年(昭和二十)七月十五日..... 840

652 7・19 岡崎空襲体験記
一九四五年(昭和二十)七月三十日..... 841

653 岡崎空襲を半田から遠望(高知師範生徒の日記)
一九四五年(昭和二十)七月二十日..... 844

654 7・28 一宮空襲 市長の記録【吉田万次日記抄】
一九四五年(昭和二十)七月..... 844

655 三 工場爆撃の拡大による被害
6・9 愛知時計・愛知航空機爆撃の惨
一九四五年(昭和二十)六月九日..... 846

656 6・26 陸軍造兵廠爆撃(矢嶋工業徴用者の記録)
一九四五年(昭和二十)六月..... 849

668	667	666	665	664	663	662	661	660	659	658	657
動員中に震災死した級友(三菱航空機道徳工場) 一九四四年昭和十九(一九四四年)十二月二十四日	半田高女震災死学徒への知事弔辞(中島飛行機) 一九四四年昭和十九(一九四四年)十一月十一日	航空機生産に大打撃【加藤隼五郎日記】 一九四四年昭和十九(一九四四年)十一月	軍需優先 住民二次の震災復旧 一九四四年昭和十九(一九四四年)十二月九日	一機に警戒せよ(7・26模擬原爆投下) 一九四五年昭和二十(一九四五年)七月二十七日	7・15半田銃撃の体験記 一九四五年昭和二十(一九四五年)七月十六日	小型機銃撃の危険 一九四五年昭和二十(一九四五年)七月十六日	不発弾による被害 一九四五年昭和二十(一九四五年)二月一日	豊川空襲遺体を六年後に処理 一九五一年昭和二十六(一九五一年)五月三十日	豊川工廠空襲死者の扱い(立命館の記録) 一九四五年昭和二十(一九四五年)八月	8・7豊川海軍工廠爆撃・豊橋高女生徒の死 一九四五年昭和二十(一九四五年)八月	7・24中島飛行機半田製作所爆撃と名工専学徒 一九四五年昭和二十(一九四五年)七月二十四日
862	861	860	859	858	857	856	856	855	854	851	850

678	677	676	675	674	673	672	671	670	669
桐生悠々の権力批判 一九四〇年昭和十五(一九四〇年)二月 一九四二年昭和十六(一九四二年)九月	無政府主義者の弾圧 一九四三年昭和十八(一九四三年)二月二十日	豊橋左翼グループの活動と弾圧 一九四三年昭和十八(一九四三年)二月二十日	救援活動グループの活動と弾圧 一九四三年昭和十八(一九四三年)二月二十日	愛知時計左翼グループの活動と弾圧 一九四三年昭和十八(一九四三年)二月二十日	開戦翌日の一斉検束(非常措置) 一九四二年昭和十七(一九四二年)五月二十日	震災による徴用解除の申請 一九四五年昭和二十(一九四五年)二月一日	大井国民学校疎開児童の被害【村田茂校長日記】 一九四五年昭和二十(一九四五年)二月	堀田国民学校職員震災死 一九四五年昭和二十(一九四五年)二月十五日	疎開児童に被害か(小学校教師の記録) 一九四五年昭和二十(一九四五年)二月十三日
874	873	872	870	868	867	866	865	864	863

第二節 文化人・知識人の抵抗

第四章 総力戦体制への抵抗と弾圧

第一節 開戦直後の左翼グループ弾圧

第三節 戦災としての地震

一 東南海地震と動員学徒などの被害

二 三河地震と疎開児童などの被害

679	天台宗僧侶の戦争批判講話 一九四一年昭和十六)十二月二十日	876
680	聖公会牧師の戦争非協力 一九四二年昭和十七)六月二十日	878
681	名大医学部左翼グループの活動 一九四三年昭和十八)六月二十日	879
682	息子の戦死は「犬死」、戦争は罪惡 一九四三年昭和十八)十一月二十日	881
683	歴史研究会の活動と弾圧 一九四四年昭和十九)七月二十日	882
第三節 労働者・戦時動員者の抵抗		
684	日本車輛争議と指導者「村寿」 一九四三年昭和十八)十月二十日	884
685	中久木勝利の労働者オルグ活動 一九四三年昭和十八)十月二十日	886
686	三菱発動機内の反戦落書 一九四四年昭和十九)三月二十日	887
687	豊田自動織機徴用者の不平 一九四四年昭和十九)三月二十日	887
688	戦争末期の労働争議 一九四四年昭和十九)八月二十日	888
689	大同製鋼を「殺人工場」と落書・替え歌 一九四四年昭和十九)十二月二十日	893
690	立命館動員学徒の抵抗(豊川海軍工廠) 一九四五年昭和二十)四月 五月	894

第四節 庶民などの抵抗		
691	いつまで戦うのか(投書) 一九四一年昭和十六)七月二十日	896
692	開戦直後の反戦言動 一九四二年昭和十七)	897
693	軍需工場誘致に異議(豊橋地区八漁業組合) 一九四二年昭和十七)十月二十日	898
694	戦争と天皇制批判の発言 一九四三年昭和十八)五月二十日	900
695	中央市場用地買収反対運動(清須市) 一九四三年昭和十八)八月二十日	901
696	読書会活動への弾圧 一九四四年昭和十九)七月二十日	902
697	鉄道教習所教官の時局批判(「近藤善之助日記抄」) 一九四五年昭和二十)五月 八月	902
第五節 朝鮮人民族運動などの弾圧		
698	朝鮮キリスト教会の活動と弾圧 一九四三年昭和十八)二月二十日	907
699	臥龍会の独立運動への弾圧 一九四四年昭和十九)二月二十日	909
700	朝鮮情勢をめぐる流言蜚語の取締り 一九四四年昭和十九)二月二十日	912
701	萌芽的独立運動への取締り 一九四四年昭和十九)十一月	913
702	民族主義グループ祖国慰安会の独立運動 一九四五年昭和二十)	915